

見積りモジュール+LD とは

「見積りモジュール+LD」は、製造業(とくに金属加工業)のお客様の多くが課題とする「短納期」、「多品種少量生産」、「厳しいコスト要求」、「見積り技術の伝承」、「情報の社有化」に対応した見積り用パッケージ・ソフトウェアです。

■ 手早く・簡単！

4つのステップ(①製品情報の入力、②材料情報の入力、③加工内容の入力、④見積り書印刷)で見積りが行えます。

■ 見積り基準を標準装備！

標準装備の工程テーブルのままでお使い頂けます。また自社の社内事情に合わせた工程テーブルに変更いただくことでさらなる見積りの精度向上が見込めます。

■ 見積り帳票作成機能！

出力したい帳票を簡単に作成・変更できます。

■ データベース標準装備！

以前の見積りを素早く検索できます。また、見積りデータの社有化が可能になります。

■ ロット数別の単価自動計算！

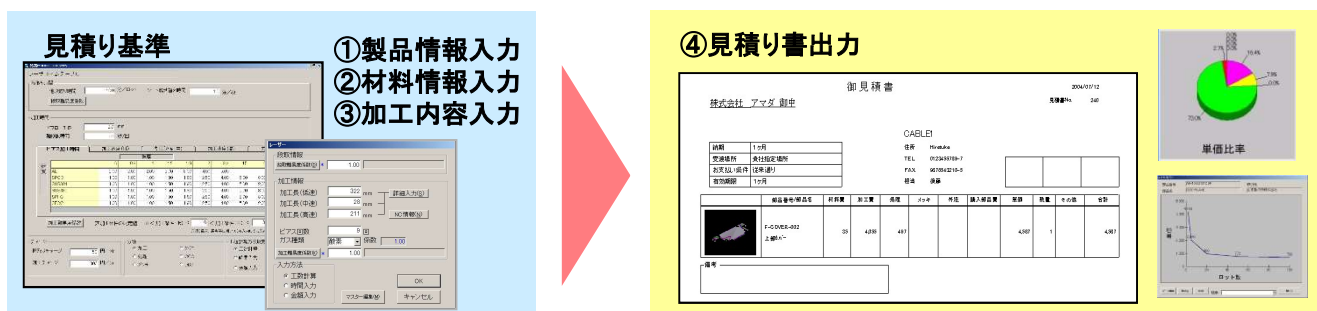
指定ロット数ごとの単価をグラフ表示できます。

■ NCデータ読み込みキット！(オプション)

SDD(ASIS100PCL・AP100)接続のNCデータ読み込みにより見積り工数を大幅に短縮。

■ 受注出荷モジュール+Mとの連携！

見積り結果は「受注出荷モジュール+M」の製品部品マスターに反映されますから、材料情報・工程情報など再入力することなくそのまま利用できます。



①製品情報入力
②材料情報入力
③加工内容入力

④見積り書出力

導入効果

- 見積り金額のバラツキ排除
- 見積り技術の伝承
- 見積り精度の向上

- 見積り金額と受注金額との比較
- 見積りデータの社有化

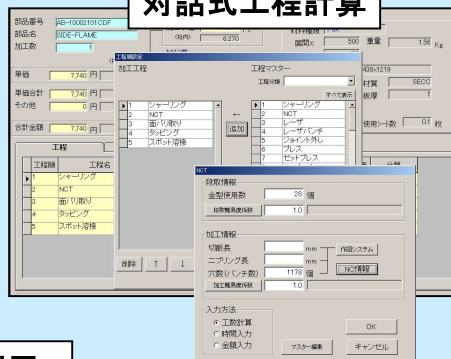
機能

見積り作成作業

視覚的にも解りやすい材料計算



対話式工程計算

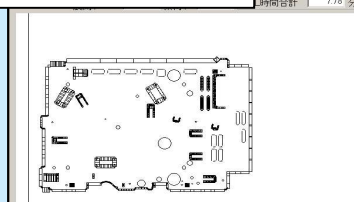


構成情報表示



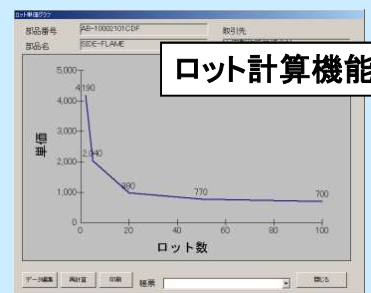
加工比率計算機能

加エプログラムを利用した工数計算(※)



(※) NCデータ読み込み(オプション)導入時

ロット計算機能



見積り基準の整備

工程テーブルを作成可能

各工程ごとに「段取り」「加工」時間を算出する工程テーブルを標準準備

精度の高い見積書を作成

品名	数量	単価	合計
部品名	1	4210	4210
部品名	1	2280	2280
部品名	1	4800	4800

必要なシステム構成

- Windows10 Pro以降 (推奨64ビット) のOS
- Celeron以上 (推奨Core i5以上) のCPU
- 4GB以上 (推奨8GB以上) のメモリ
- Microsoft Office Access 2016以降 (またははAccessを含むMicrosoft365)
- Microsoft SQL Server 2016以降 (無償版 : EXPRESSも利用可)
- 100GB以上のハードディスク空き容量
- 1366x768以上 (推奨1920x1080以上) のグラフィック
- インターネット接続環境

お問い合わせ

(株)アマダ ソフト商品推進部 TEL:0463-91-8030